

「進路活動」も「学校祭」も
そして
将来の「仕事」でも



期限の"き"、きまりの"き"とは

教室では「忘れたので明日でいいですか？」という申し出に度々対応しています。

(↑特定のクラス、学年のことではありません。東商だけに限りません↓)

職員室では「何回言っても期限・きまりを守れない！」という嘆きの声も時々耳にします。

会社・組織・団体では「期限・契約を守る」ことは正当なことです。

(↑こういう普遍的な話をすると「ウルサイ」「面倒くさい」と思う“おこちゃま”な人もいますが、.↓)

大人の関係では「あいさつ、報告・連絡・相談が出来ること」が前提です。

では、なぜそれらが

【正当 (理に適っていること)】・【普遍的 (何時でも何処でも誰とでも)】・【前提 (当然であること)】

なのでしょう??それは..

① 多くの他者への迷惑の発生

例えば、< 期限までに集まらない = 次の作業が出来ない = 他の人(集団)の作業も滞る >

⇒ 自分が“約束”を守らないと、活動に支障が出る他者が大勢発生する

例1) 「旅行参加確認書」=HR全員分⇒学年主任=参加の掌握(人数・金額)⇒旅行会社=行程調整(バス・ホテル)

例2) 「各教科の課題」=担当HR分⇒教科担任=評価の検討(担当分)⇒教科会議(学年全体)=成績確定

例3) 「小論文指導申込」=希望者分⇒進路担当=担当者の割振(全職員)⇒職員へ周知(学校全体)=担当決定

例4) 「商品開発」=各部の案⇒企画会議=商品の決定⇒他の会社(複数)=部品製造・CM展開

※始まりが滞ると(期限超過)、次の作業・企画に進んでいけず停滞する(待たせる・迷惑となる)

他(人や環境)への影響を考え、他を優先して行動できる者を大人という。

あなたを優先したり、待ってくれている大人が沢山いることに気がついていませんか？

② 自分自身の信頼の損失

例えば、< 期限、きまりを守らない = だらしない・信用できない = 一緒に活動したくない >

⇒ 自分の“都合だけ”で行動すると、他者からの期待はどんどん減っていく

⇒ 学校以外の環境では、信頼に対する評価は無言で判断する

【期限・きまり=契約・約束=信用・気づかい】であり、

【期限・きまり】を守ることは、他者と自分、両方を大切にすることである。

!!期限のある「事柄」のねらいを理解し、影響を考えて取り組み「責任」を果たそう!